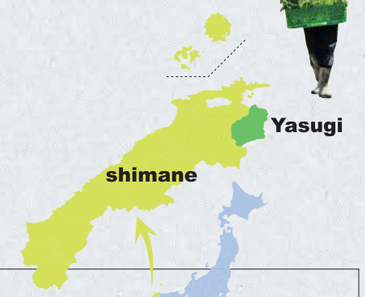
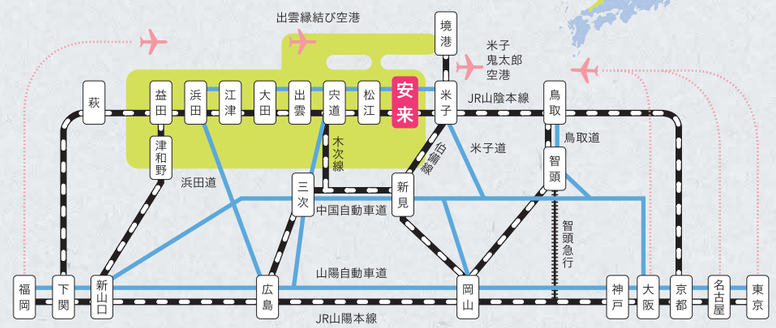
やすぎ就農Book

2026

住まい　ハウス整備　師匠　農地

島根県安来市





車でのアクセス

東京から	約9時間30分	東名・名神道→ 中国道→ 米子道→ 山陰道→ 安来
大阪から	約3時間30分	中国道→ 米子道→ 山陰道→ 安来
岡山から	約2時間10分	岡山道→ 中国道→ 米子道→ 山陰道→ 安来
広島から	約2時間40分	中国道→ 松江道→ 山陰道→ 安来
福岡から	約5時間30分	九州道→ 中国道→ 松江道→ 山陰道→ 安来

鉄道（JR）でのアクセス

東京（新幹線）→ 岡山（特急）→ 安来　約6時間
大阪（新幹線）→ 岡山（特急）→ 安来　約3時間15分

飛行機でのアクセス

東京から	出雲縁結び空港まで	80分
	米子鬼太郎空港まで	80分
名古屋から	出雲縁結び空港まで	60分
大阪から	出雲縁結び空港まで	55分
福岡から	出雲縁結び空港まで	65分

米子鬼太郎空港から安来まで車で　35分
出雲縁結び空港から安来まで車で　40分

就農に関するお問い合わせは

安来地域担い手育成総合支援協議会
（安来市農林水産部 農林振興課）
Tel.0854-23-3330

〒692-0207　島根県安来市伯太町東母里580　fax.0854-23-3382
e-mail：shinkou@city.yasugi.shimane.jp
http://www.city.yasugi.shimane.jp/busyo/sangyou/nourin/kensyu/

島根県
東部農林水産振興センター
安来農業部
〒692-0025　島根県安来市穂日島町303
Tel.0854-22-2341　fax.0854-22-4352
e-mail：noshin-yasugi@pref.shimane.lg.jp

島根県農業協同組合
やすぎ地区本部
担い手支援センター
〒692-0025　島根県安来市穂日島町303
Tel.0854-23-0255　fax.0854-23-0255
e-mail：ninaite.yas@ja-shimane.gr.jp

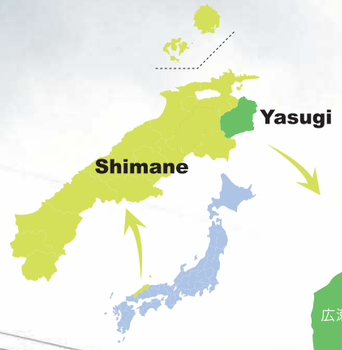
安来市農業委員会
〒692-0207　島根県安来市伯太町東母里580
Tel.0854-23-3360　fax.0854-23-3383
e-mail：nougyou@city.yasugi.shimane.jp

発行／安来地域担い手育成総合支援協議会（安来市農林水産部 農林振興課）
2026年3月発行

＊無断転載、コピーはご遠慮ください。

安来で就農しよう

島根県の東端、鳥取県との県境に位置する安来市。
南には中国山地に連なる山々が横たわり、
そこを源流とする飯梨川と伯太川の2本の川の間には
広大な能義平野が広がっています。
肥沃な大地は県内有数の農業地帯として恵みをもたらし、
水稲、いちご、ぶどう、梨、花き、葉物野菜などの産地として
多くの安来ブランドを生み出しています。
農業研修の受け入れにも積極的なことも安来の風土。
農業に夢をもち、共に挑み続ける新しい風を歓迎します。



安来地区

中海に面している安来地区は、国道9号とJR山陰本線が東西を走る、アクセス至便なエリア。ハウス栽培の葉物や、完熟とれたてで差別化をはかるいちご栽培が盛ん。

広瀬地区

安来の山間部の広瀬地区は、戦国武将「尼子氏」の居城、月山富田城を望む旧城下町。寒暖差がある標高300mの田んぼで栽培される良質米の産地。

伯太地区

安来市の特産「伯太番茶」の産地として知られる伯太町は、昔からお茶栽培が盛んな地域。約60万本のチューリップが咲き誇る「チューリップの里」としても有名。

安来市では、新規就農を目指す方に対して包括的な支援を行っています。「師匠」の指導のもとでの研修から、就農時の「農地」の確保や「ハウス整備」まで一貫してバックアップ。また、将来の定住を見据え「住まい」のサポートなどもしています。

単身者も子育て世帯も安心！

師匠 のもとで マンツーマン の実技指導

師匠

島根県知事認定の指導農業士のもとでの研修を行います。強い師弟関係を築いて、就農後もサポートします。

移住見込みの方や就業準備中に お試し住宅

住まい

安来市への移住を検討する方が一時的に居住し、安来の気候、風土、生活を体感してもらうための施設です。安来市への移住が確実と見込まれる方が、市内に転居したり、就業準備のために一時的な仮住居としても利用可能です。

空き家バンク

居住しなくなった空き家を所有者が市に登録し、その物件を買いたい人・住みたい人へ紹介する仕組みです。UIターンや田舎暮らしを希望される方、市民の方へ市内の空き家（賃貸・売却が可能な物件）を紹介します。

安来市定住支援サイト：やすぎくらし「住まい・空き家」サイトはこちら ⬆

ハウス整備 支援で、初期投資を軽減

ハウス整備

いちご、有機葉物野菜などハウス栽培の作物の場合、県の補助事業を活用し、就農時の初期投資が軽減できます。

葉物ハウス

いちごハウス

農地の確保

農地

新規就農者の希望に添いながら、関係機関で連携し、相談可能です。

安来市は新規就農者を応援します。

安来市は、島根県内でもとくに充実した研修メニューで農業経営者の育成に力を入れています。新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得できます。自営就農（専業）だけでなく、兼業農家、雇用就農の選択肢もあります。生活費支援や傷害保険加入で、研修中の生活をサポート。指導農業士や先に就農した先輩たちのアドバイスを受けながら、農業人への一歩を踏み出してみませんか。

Step 1 就農相談

農業で生きる決意を固める前に、まず相談。担い手協議会では農業に関する情報提供やアドバイスを行っています。また、各地の就農相談会や農業体験ツアーへの参加もお待ちしています。

農家ミニ体験

本格的な研修を受ける前に、自分が本当に農業ができるかどうか、安来で暮らせるかどうか、実際に安来に来て、農業ミニ体験をしてみよう。

- 農業体験プログラム（※）を利用することが可能

体験期間／１日～３日

いちごの収穫研修

※公益財団法人しまね農業振興公社に申し込みが必要です。

Step 2 師匠研修 安来市新規就農研修

◎ 師弟制度でマンツーマンの実技指導

島根県知事認定の指導農業士のもとで、新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得するための研修を実施し、就農後も相談役としてサポートします。

- **対　象　者／**研修期間終了後、安来に定住し、新規就農が可能な方で農業に積極的に取り組む意欲のある方
- **研修期間／**１年以内
- **研　修　先／**指導農業士農場（農業研修）、関係機関（農業）

研修中の住まい

- **滞在施設（宿泊施設）を利用できます**
  ワンルーム（52㎡・ロフト付・セパレート）
  使用料　２万円／月（光熱費は実費負担）
  無料駐車場完備
- **傷害保険に加入**（掛金は安来市負担）

助成内容

- **産業体験事業**（ふるさと島根定住財団）
  UIターン者
  12万円／月（3ヶ月ごとに36万円支給）

働き方の選択

専業農家

兼業農家

雇用就農

雇用就農

雇用就農

専業農家

就農の決心

審査

やる気

計画性

自己資金

労働力

あなたが農業に向いているか、支援すべき人材かなど、総合的に審査します。

Step 3 実践研修

自営就農研修

研修用のハウスを借りて栽培の計画から実際の栽培、収穫、販売までの一連の作業を実践的に研修できます。

- 専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、研修施設で研修（JA担い手支援センター）
- 師匠研修・経営研修・販売対策ほか
- 青年等就農計画の作成

助成内容

- **新規就農者育成総合対策**（就農準備資金）
  就農時50歳未満
  最大165万円／年（最長２年）
  ※世帯所得600万円未満対象
- **農業人材投資事業**（県単・準備型）
  就農時 50 歳以上 65 歳未満
  ●UIターン
  最大 144 万円／年（最長1 年）
  ●県内在住
  最大 72 万円／年（最長1 年）
  ※世帯所得600万円未満対象

Step 4 就　農

就農計画を作成し、認定新規就農者になる

- **農業所得目標：概ね280万円以上（就農５年後）**
- **適切な資金運用計画を立てる**
- **年間農業従事日数が150日**

- **営農サポート／**農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供
- **機械・施設整備／**機械取得・施設整備に対する補助事業（補助率 1/3）
- **ハウス整備／**農業用ハウスの整備に対する補助事業（補助率 1/2）
- **青年等就農資金／**経営開始時の施設整備や経営費等のための制度資金（無利子・上限 3,700万円、償還期間：17年以内（５年据置））

助成内容

- **新規就農者育成総合対策**
  ①経営発展支援事業　就農時50歳未満　補助事業費上限 1,000万円（補助率 3/4）
  ②経営開始資金　就農時50歳未満　最大165万円／年（最長3年）
  ※世帯所得 600万円未満対象
  ①、②併用の場合、①の補助事業費上限 500 万円
- **農業人材投資事業**（県単・経営開始型）
  就農時 50 歳以上 65 歳未満　最大 72 万円／年（最長2 年）
  ※国際水準 GAP（美味しまねゴールド等）を事業開始後 1 年以内に取得

※各助成金額は令和８年３月時点のものです。変更の可能性があります。

農業法人・個人事業者など

- **雇用就農先を探し、就職活動を行う**
- **雇用農業者として就農**
- **雇用就農先で OJT 研修**

雇用就農

安来市特定地域づくり事業協同組合

地域づくりパートナー

- **派遣先農業事業所へマルチワークで経験を積む**
- **派遣先でOJT研修**

詳しくは P10 へ

安来市は、行政、JAなどの関係機関が連携して農業をしたいあなたをバックアップします！

師匠研修 interview

Step 2

就農歴 11年

実践研修生

2026年9月就農予定

翠 良昌さん（49）

指導農業士

高見謙一さん（58）

夢の地方移住を実現 師匠や地域に支えられ就農へ

生まれも育ちも大阪府の翠良昌さん。母方の実家が島根県津和野町で、子どもの頃から山陰になじみがあり「いつか自然豊かな地方都市で暮らしたい」という気持ちが芽生えていった。大阪の就農フェアで安来市を知り、実際に訪れて土地柄や人柄の良さに魅力を感じた。高速バスなど大阪までのアクセスの良さも決め手となり、2024年2月に夫婦でIターン。前職は機械設備設計で農業経験はなかったが、手厚い就農支援に背中を押され、同年3月から高見さんのもとで師匠研修が始まった。

研修中は高見さん夫婦をはじめ地域の人が翠さん夫婦を気にかけてくれた。「田舎は閉鎖的なイメージがあるかもしれないが、まったく違って本当に温かく受け入れてくれた」と翠さん。栽培技術や農業経営を学びながら、いちご農家の一年を経験。翠年4月に実践研修にステップアップし、現在は自営就農を目指して日々いちごと向き合っている。

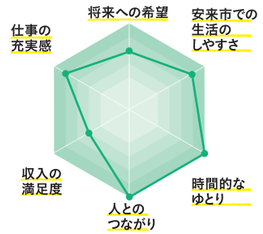
● **翠さん プロフィール**
大阪府出身。機械設備設計の仕事を経て、安来の土地柄や人柄に惹かれて夫婦で移住。1年間の師匠研修後、実践研修に入り、奥さんもいちご栽培に協力。趣味の海釣りではイカなどを釣っている。

● **高見いちご縁　高見謙一さん プロフィール**
JAのやすぎ苺部会の部会長。「栽培は基本を大切に、消費者に渡るまでの後工程も大事に」が信条。元いちご農家の両親と妻子の家族ぐるみで、章姫、紅ほっぺ、ベリーポップすずなどを高設2棟、土耕6棟で栽培している。

翠さんの研修中の1日

6：00	起床
8：00	師匠研修（収穫、調整作業）
11：30	昼休憩
13：30	師匠研修（収穫、調整作業、本舗管理作業、出荷）
17：00	帰宅

研修中の満足度指数



Q.農業のやりがいと、大変なところは？

A. 自分の行動が目に見えて結果として現れることにやりがいを感じています。大変だと感じる作業はほとんどありませんが、暑い中での作業だけは大変でした。

Q.現在の課題と、今後の目標は？

A. すべてが課題ですが、まずはいちごが何を求めているか判断できるように、その声を聴けるようになりたいと思っています。また、精神的な豊かさを求めて移住したので、暮らしを楽しむことも目標です。

やすぎのいちご YASUGI no ICHIGO

「やすぎ苺部会」がサポート！

- 部会員数：64戸（2026年3月現在）
- 主な品種：章姫、紅ほっぺ、かおり野、よつぼし　など

やすぎ苺部会では、適期での完熟収穫による、味にこだわったいちご栽培をコンセプトとしています。研修会などで技術面のサポートをすることで、高品質・高単価を目指し、統一された規格（色、形）、品質での出荷を行っています。

実践研修 自営就農研修

Step 3

島根県農業協同組合 やすぎ地区本部

担い手支援センター

島根県安来市穂日島町303　TEL.0854-23-0255

島根県より農地・施設を借り受け、2012年4月から安来市の農業研修事業施設としてスタート。研修用のハウスと露地圃場を整備し、自営就農するまでの実践的な研修ができます。現在は、いちご（土耕、高設）、有機葉物野菜（ほうれん草、小松菜、水菜）の各品目に応じた取り組みが可能で、国や県の「就農準備資金」の助成を受けることができます。

自営就農するまでの期間 最終的な実践研修ができる

担い手支援センターは、師匠研修（ステップ2）を終えた人が、自営就農までの期間に研修用のハウスや農地を借りて自分のやり方を実践できる施設です。要望に応じて農薬や肥料の手配などもしてくれ、技術的なことは同じ敷地内にある県の農業普及員に聞くこともできます。

「研修生の方にはここで少しでも自信をつけていただくと同時に、就農5年後に280万円以上の農業所得を得られるような計画を立てていただきます」と支援センターの中川治さん。行政機関や各種団体等と連携をとりながら、初期投資費用についての具体的な相談や就農後に必要となる農業簿記の研修など、研修者のニーズに対してさまざまな支援を行っています。

「新規就農する方の思いはそれぞれです。その方が目指す農家経営に向けてベストな形になるような支援ができれば」と中川さんが言うように、担い手支援センターは研修者が農家経営に踏み出す一歩手前の力強い味方です。

担い手支援センター
中川 治さん

研修生コメント

研修用のハウス1棟で「紅ほっぺ」を栽培しています。水や肥料をあげるタイミング、温度調整などの判断に迷うことは多々ありますが、自分の行動によって果実が大きく成長するなど、結果として現れることにやりがいを感じています。今はすべてが課題と言えますが、安来での暮らしを楽しみながら、いちごの“声”を聴き取れるようになることを目指して奮闘中です。

研修生　翠 良昌さん（49）

研修施設

【施設概要】　圃場面積 269a
うち新規就農実践研修施設 14.7a
【研修可能内容】いちご（土耕、高設）
葉物野菜（ほうれん草、小松菜、水菜）
【研修定員】　4人（安来市新規農業研修（師匠研修）修了者）

ぶどう農家歴 20年

Step 2

夢を共有し、安来のぶどうを次世代へ

父から受け継いだぶどう園で、島根県のオリジナル赤ぶどう「神紅（しんく）」など約30品種を栽培する足立さん。地域や次世代のために“儲かるぶどうづくり”を目指し、長年培った技術や知識を研修生に惜しみなく伝えている。ぶどう栽培は植え付けから収穫まで3年。さらに花穂整形、摘粒作業など根気や忍耐強さが求められる作業の連続だが、その分、「おいしい！」の一言は格別だ。「一緒に安来のぶどう栽培を盛り上げ、自分のぶどうのファンをつくりましょう」と熱く呼びかける。

師匠研修 指導農業士から Message

足立ぶどう園 代表
足立 昌俊さん（65）

米子市の農業資材卸会社勤務を経て、45歳で就農し父のぶどう園を継承。110aの無加温ハウスで島根県オリジナル赤ぶどう「神紅」をはじめ多数の品種を栽培している。

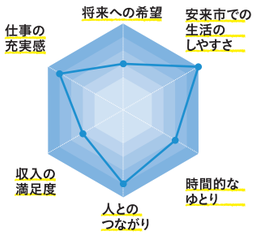
● **大森菜月さん プロフィール**

神奈川県横浜市出身。中学３年の時に一家でＩターン。島根県立農林大学校卒業と同時に2022年３月自営就農。シャインマスカット、ピオーネ、クインニーナ、デラウェアの4品種を栽培。県や農大の先生からのアドバイスでいちじくも植え、増収を図っている。

大森さんの収穫時期の1日

5：30　起床
6：00　糖度調査収穫
10：00　パック詰め
12：00　昼休憩
15：00　パック詰め、出荷準備
18：00　帰宅

就農後の満足度指数

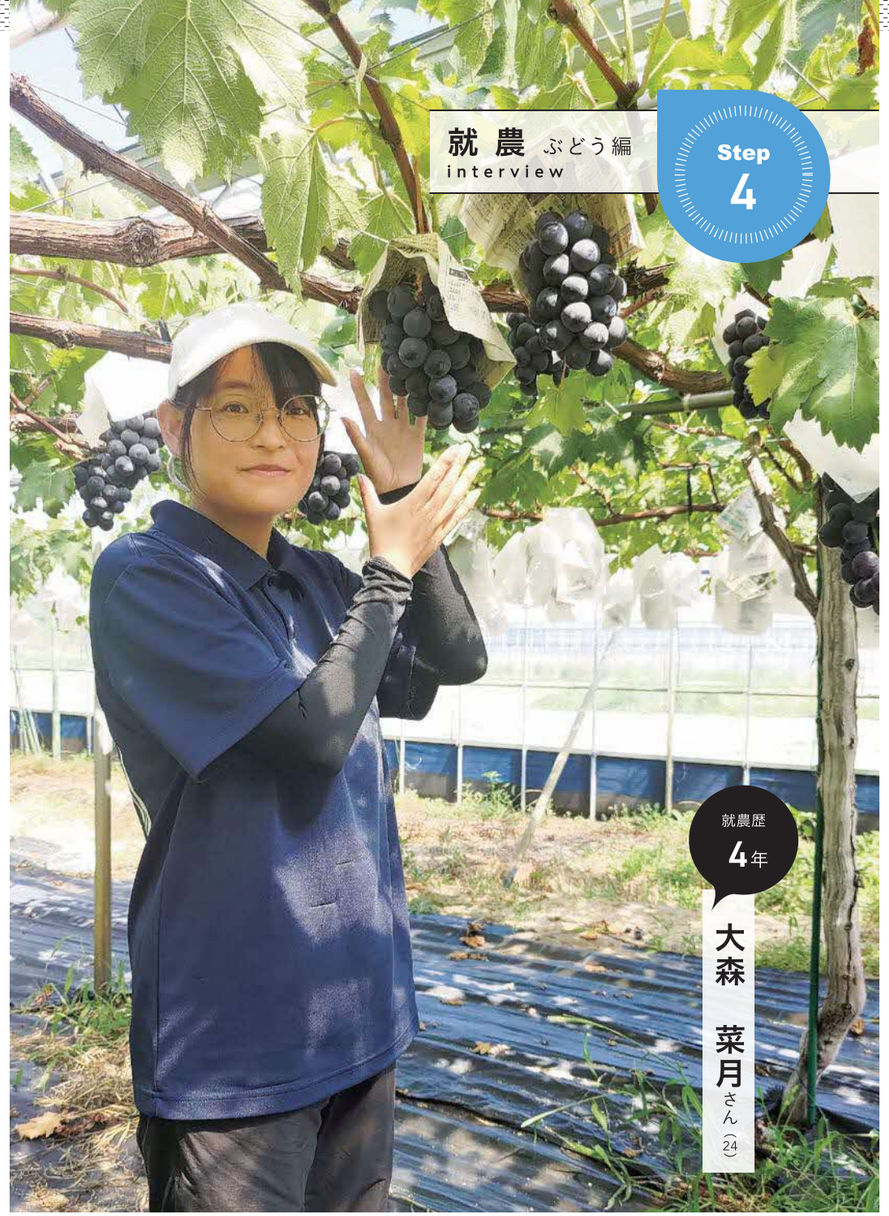


Q.農業のやりがいと、大変なところは?

A. 育てたぶどうが大きく立派な実になったときはとても嬉しくて、その場でつまみ食いができるのも特権です。夏の朝は5時頃から作業が始まるので早起きはちょっと辛いです。

Q.現在の課題と、今後の目標は?

A. 収穫量を増やして安定させること。ただ、どんどん拡大するのではなく、まずは一人でできる範囲で地道にやっていきたいです。



就農 ぶどう編 interview

Step 4

就農歴 4年

大森 菜月さん（24）

農林大学校で学び自営就農「ぶどうは一生の仕事です」

横浜市生まれの大森菜月さんは中学3年のとき、一家で安来市にＩターン。高校卒業後の進路を決めるころには就農を考えるようになり、もともとぶどうが好きなことと、父の助言で島根県立農林大学校果樹専攻へ進学した。「農大では実際に植えてあるぶどうの樹で年間を通して作業が学べたので、就農後もスムーズだった」と振り返る。農大と安来市や関係機関が毎年情報交換するつながりに加えて、両親の人脈も心強かった。

自営就農は農大卒業と同時の2022年3月。空きハウスがあったことと機械導入に関する補助など、市の丁寧なサポートで初期投資も抑えられた。初収穫はほぼ県内のケーキ店に出荷したという。町内のぶどう生産者の中で若手として期待され、懇親会で鍋を囲みながら大先輩のアドバイスももらう。「ぶどうは一生続けていきたい仕事です」と思いはまっすぐだ。

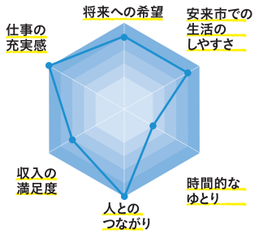
● **小﨑一貴さん・美月さん プロフィール**

一貴さんは福岡県出身。美月さんは広島県出身。前職の勤務地米子市で同僚として出会う。2021年安来市移住と同時に入籍。同年5月から師匠研修、実践研修を経て、2023年9月自営就農。現在4品種（かおり野、ベリーポップすず、紅ほっぺ、章姫）のいちごを高設栽培する。研修期間中から農業関係の人脈も広がり、アドバイスや情報交換、さらに販売先の確保にまでつながっている。

小﨑さんの収穫時期の1日

6：30　起床
7：00　収穫
10：00　調製
12：00　昼休憩
13：00　調整・出荷準備
（時間があればハウス作業）
17：00　出荷
18：00　帰宅

就農後の満足度指数



Q.農業のやりがいと、大変なところは?

A. 自分の手で一から育てあげる達成感と、食べたお客さんに「おいしい」と言ってもらえる幸福感が醍醐味です。自然環境に大きく左右されるため臨機応変な対応と新しい知識の習得は必須で、体調管理も重要です。

Q.現在の課題と、今後の目標は?

A. 現在、5棟のハウスで4品種のいちごを栽培しており、最盛期には作業に手が回らない状況になることも。雇用を拡充することで作業効率を上げ収量を増やし、安来のいちごをさらに盛り上げたいと思います。

就農 いちご編 interview

Step 4

就農歴 2年

小﨑 一貴さん（47）
美月さん（32）

安来で育ついちごは夫婦の夢と地域の結晶

小﨑さん夫妻は元公務員。以前から興味があった農業で40歳を機に定住したいと考えていた一貴さんの思いは、やがて美月さんとふたりの目標になった。各地の新規就農者支援情報を調べ、見学したうえで選んだのは安来市だ。決め手は、実践的な研修体制が整い、地域で心から歓迎してくれる温かな雰囲気と先輩Ｉターン者の存在、補助金等の支援の充実だった。移住と同時に入籍。夫婦揃っての研修を経て、2023年9月、ハウス3棟で自営就農した。

「研修制度は最短で効率よく知識が得られる手段」と実感する一貴さんは、師匠や自営就農者の先輩はもちろん、地域の農家の人たちも良き師匠だという。美月さんも「皆さんが気にかけてくださり、食味につながる水分量など具体的なアドバイスまでいただきます」と感謝する。「美味しいいちごで安来を盛り上げたい」という夫婦の夢を加えて、いちごは最高の風味を獲得するべく育っている。

いちごの「高設栽培」と「土耕栽培」

「高設栽培」は環境制御がしやすいことや、適果や収穫などの作業姿勢の負担が少ないことがメリットですが、「土耕栽培」に比べると初期コストがかかることが難点です。それぞれのメリット・デメリットをふまえたアドバイスを行っています。

Step 4

就農 葉物編
interview

就農歴 8年

田村耕大郎さん（47）雅子さん（47）

ーターンして就農歴8年 次世代へつなげる圃場へ

安来市には充実した新規就農制度があり、未経験者でも安心して挑戦できる。Web系エンジニアだった夫の田村耕大郎さんと妻の雅子さんも、その環境に魅力を感じ東京からーターン。ともに研修を経て、2017年7月に有機野菜で自営就農をスタートした。「赤江・オーガニックファーム」の一員として、安全で美味しい野菜を届けている。

かつては「有機」という付加価値に違和感を抱いていた耕大郎さん。しかし研修先の岸川さんの農園で、必要以上に手を加えないシンプルな農業に触れ、その考えは一変した。

「安全で美味しい野菜を追求する、理にかなった農業だったから、僕の肌に合ったんです。地域を底支えする重要な産業だということ実感しました」。

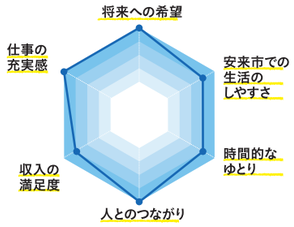
今は、次世代に引き継げる圃場づくりを目標に、雇用も創出しながら、より安定した経営を目指して挑戦を続けている。

● **田村耕大郎さん・雅子さん プロフィール**
米子市出身の耕大郎さんと、生まれも育ちも東京の雅子さん。期間の差こそあれ、ともに研修を経て、2017年7月から独立就農。共同経営者として最強最良のパートナー。

田村さんご夫妻の1日

6：00	起床
7：00	収穫、調整
13：00	昼休憩
14：00	圃場管理、出荷
18：00	帰宅

就農後の満足度指数



Q.独立就農にあたり、良かったサポートは？

A. 安来市の農林振興課の担当者さんが、JAや県とも連携し、行政の立場を超えて、親身に私たちの暮らしを気にかけ、本気で応援してくださいました。

Q.現在の課題と、今後の目標は？

A. 後継者の育成が課題。集落営農に頼るのではなく、産業として自立できる営農の形をつくりたいです。そして安来市で生まれ育つ人が、生涯にわたって安心して暮らし、働けるまちだと感じられるように、その一端を担う事業所を目指しています。

UIターン者を中心に結成「赤江・オーガニックファーム」

安全でおいしい野菜を消費者に提供したいと集まった安来市赤江地域のUIターン者で、平成27年に結成。有機JAS認証を取得し、ハウス栽培で1年を通して、安定して葉物野菜を生産している。さらに生産力と販売力を拡大しようと、ハウスを団地化する計画もあり、同じ志をもつ新規就農者も募集。

安来市特定地域づくり事業協同組合

地域づくりパートナーから雇用就農、自営就農の未来へ

「安来市特定地域づくり事業協同組合（以下、組合）の組合員（事業者）のほとんどが農業事業者です」と事務局長の石原和幸さん。組合で雇用する派遣労働者は"地域づくりパートナー"（以下、パートナー）と呼び、数年後には事業者の正規社員として雇用または、自営就農に向け、育成しているところです。

パートナーにとっては安定的な収入確保と、さまざまな事業に従事できる利点があります。これまでにも1年で組合を卒業して正規雇用に結びついたり、自営就農への足がかりとしている人など、市内外から人材を受け入れています。

「移住相談や雇用就農、自営就農相談など、組合への相談はさまざま」と石原さん。安来市移住や農業を始めたい、農業に携わりたい人の窓口の一つとなっています。

安来市特定地域づくり事業協同組合
事務局長　石原和幸さん

安来市特定地域づくり事業協同組合

地域コミュニティや産業の担い手不足に対し、仕事を組み合わせマルチワークを形成。「組合員」である事業者に対し労働派遣を行います。派遣労働者を地域の担い手＝「地域づくりパートナー」として受け入れ、育成することを目的としています。

「地域づくりパートナー」はさまざまな事業に従事し、スキルアップを目指すことができ、「組合員（事業者）」には、次世代の人材育成、将来雇用につなげることができます。「地域づくりパートナー」が地域活動に参加することによりコミュニティ維持につながります。「地域づくりパートナー」「組合員」「地域」三方よしとなるように取り組んでいます。

島根県安来市安来町878番地2
TEL.0854-21-9005
https://www.yasugi-multi-work.com/